落合知子 編
『医歯薬学系博物館事典』

本事典の謝辞として落合知子が記している本書の成り立ちは，令和元年の冬から長崎国際大学博物館学ゼミ生たちと始めた全国の医歯薬学系博物館の調査に始まるという．新型コロナウイルスの拡大に伴い調査は困難を極める中，154館58園の理解と協力で令和3年5月に発刊できたとのことである．編著者・ゼミ学生そして諸施設の執筆者のご苦労に感謝して本書を手にしたものとして紹介します．博物館学を研究する落合知子の述べるように歴史系資料と医歯薬系資料は，現在において同様の価値を持のものであろうが，日本のこの領域を網羅した事典はなかったように思われる．

本事典の第1部には『全国の医歯薬学系博物館及び薬用植物園』として，現在活動している医歯薬学系博物館として，北海道（7），東北（9），関東（62），中部（38），近畿（41），中国・四国（22），九州（33），計212施設の沿革・概要・研究・教育・HP等が収載されている．紹介者が訪ねたことのある施設を数えてみたところ，わずか27施設に過ぎなかった．残る施設を自由に見学できる日を待つよりほかにない今日である（2021年8月30日記す）．本書の執筆者・原稿指導者及び協力者そして学芸員の方々に敬意をこめて，これからお伺いしたい施設の多いことを知ることができた．

第2部には『医歯薬学系博物館を考える』として次のような論考が掲載されている．

長崎に始まる医薬伝承を考える　中島憲一郎
種痘からみた医学・医療の多面性　松村紀明
薬用植物園の現状と課題　三宅克則
民間の医学資料館の立ち上げから開館まで　木下　浩
ガーナ野口英世記念館と野口記念医学研究所　宇津拓洋
医学・薬学系資料の展示に関する一考察　中島金太郎
展示史に見る医学系資料　落合知子
大学附属薬用植物圓の歴史小孝　田川太一

それぞれの研究者のフィールドにおける論考は医史学を学ぶ我々とまた異なる博物学・歴史学，そして現在の社会への視野をも広げてくれるものである．

そして本書の巻末に田川太一のまとめた『全国の医歯薬学系博物館一覧表』と『全国医歯薬学系博物館基本情報』には，本事典への掲載されていない施設も公開非公開を含めて収録されている．今そしてこれからの研究者に大きな情報を提供していただけたことを感謝する．COVID19パンデミックの中にある世界と日本において，本書に掲載されている諸館が今後の社会でどのような位置取りをすることができるかは不明確としか言えないが，それぞれの発展する歴史を期待したい．

一つだけ掲載施設について述べたい．第1部の最後に載る鈴木陽子『沖縄愛楽園交流会館』についてであるが，沖縄愛楽園自治会の設置により2015年開館されたとのことである．紹介者は1972年に医学部6年生の夏，熱帯医学研究会の学生活動として一人で名護市の愛楽園に一泊させていただき見学をしたことがある．当時見学させていただいた資料も自治会設立の資料館・国際交流会館に公開されていると考えられる．懇切丁寧な案内で愛楽園を見学させていただいたが，平和の70年の間に交流会館として実を結んでいることに感慨深いものがある．本事典に掲載されている他の館・園についても本事典を手にされ，日本の医歯薬学系博物館のそれぞれに重さを感ずる方は多いと思う．

本事典の編集出版に尽力された方々のご労苦に感謝して本事典を紹介する．

（渡部　幹夫）

［雄山閣，〒102-0071 東京都千代田区富士見2-6-9，TEL. 03（3262）3231，2021年5月，A5判，340頁，9,900円＋税］